

## J21b すざく衛星による銀河面領域観測時に発見されたトランジェント天体

山内茂雄 (岩手大人社)、海老沢研 (ISAS/JAXA)、馬場彩 (理研)、岩澤一司、田中靖郎 (MPE)、石田学 (首都大理)、国分紀秀 (東大理)、小山勝二 (京大理)、高橋弘充 (広大理)、坪井陽子 (中央大理工)、すざくチーム

銀河面から点源に分解できない広がった X 線が放射されていることが知られているがその起源については未だ解明されていない。すざく衛星は、銀河面 X 線放射を詳しく調べるため、過去に Chandra 衛星で長時間観測を行い、すざく衛星の検出限界以下の点源がよく分解されている field(銀経 28.5 度、銀緯-0.2 度) を 100ks 観測した。すざく衛星の低バックグラウンドと大面積化のおかげで、6-7 keV のエネルギー領域にある鉄からの K 輝線をはじめ、精度のよいスペクトルを取得することができた。広がった X 線放射についての初期解析については 2006 年春季年会において報告した。この観測中にトランジェント天体が発見された。本講演ではこのトランジェント天体の観測結果について報告する。

視野中心に近いところに位置する天体は観測開始時には暗かったが、観測後半に約 20 倍の増光をした。X 線スペクトルにはっきりとした輝線が見つかった。この輝線のエネルギーは 6.66 keV であり、これは高電離した鉄からの K 輝線に同定される。フレア中の平均の X 線スペクトルは、大きな星間吸収を受けた温度が 7keV 程度の高温プラズマガスからの放射モデルで良く説明できる。トランジェント天体であること、強い鉄輝線を持ち、ハードな X 線放射を持つという特徴から、この天体がどのような天体であるかを議論する。